

オンライン公開保育の可能性とその方法

－ 配信される保育実践の映像をめぐって －

東洋大学 ライフデザイン学部
生活支援学科 子ども支援学専攻

准教授 高橋健介

(本オンライン研究会ではICT技術を担当)

①

1. オンライン公開保育の可能性について

- 近年、公開保育は保育の質や保育者の専門性向上の取り組みとして期待され、国公立幼稚園をはじめ、様々な種別、団体、地域においておこなわれようになってきている。保育実践での実際の子どもの姿や保育者の援助、環境構成などを見て、参加者同士で対話しながら学びを深め合う取り組みが注目されているのである。
- しかしながら、このコロナ禍においては、外部の大人多数が子どもが生活する場に入っていくことは困難であり、現在、公開保育の実施は極めて難しい状況になっている。今後、実施されたとしても、参加人数や時間が制限されるなど、これまでの公開保育とは違う形態でおこなれることが予測される。
- その中で注目され始めているのがオンライン公開保育である。オンライン公開保育は、インターネット（Web会議システム等）を通じて保育の映像が配信されるので、実施園に行かなくとも、ネットがつながる日本（または世界）のどの地域からでも参加することが可能である。

②

- 移動に時間をかけなくとも、職場等からインターネットによって容易に参加できるため、オンラインでの公開保育ではあるが、保育者が参加しやすくなる可能性がある。
- さらに、Web会議システムを用いることで、チャットによる質疑応答や実況・解説も技術的には可能であり、これまでの公開保育での学び方とは違う新たな可能性を見出すことができるのである。
- 一方で、オンライン公開保育は現時点で事例は少なく、どのような方法（ICT技術を含む）が保育者の学びに効果的なのか、また課題なのか、今後、活発な議論が必要である。
- そこで本資料では、保育者の新たな学びの場として期待されるオンライン公開保育の可能性について検討していきたい。特に、保育実践の質向上の検討に資するオンライン公開保育の映像のあり方について考えていきたい。

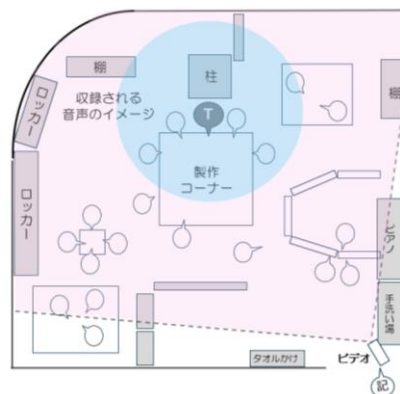


③

2. オンライン公開保育における映像のあり方

(1) 俯瞰的な視野による映像について

- オンライン公開保育のあり方を考えるにあたり、まずは参加者が共通に視聴する保育実践の映像について、どのような映像が配信されるべきかは重要な論点になると考える。
- 配信される保育実践の映像は、その一つとして、なるべくクラスの多くの子どもと保育者が映り込むような俯瞰的な視野による映像が必要と考える。



<図1> 俯瞰的な視野で撮影された環境図の一例
(筆者の別園での園内研修から)

④

- なぜならば、子どもの主体性を重視する保育では、クラス集団における多様な子どもと子ども、群れと群れ、子どもと保育者などの相互作用が子ども一人ひとりの行為に影響を与えているからである。
- 例えば、子どもは担任保育者と離れた場においても、時々保育者の位置を確認したり、その言動を注視している姿が見られる。保育者においても、近くの子どもと関わりながら、離れた子どもにも視線を送り、見守っていることもある。
- このようにクラス全体の関係性の中で、幼児期の基盤となる安心感や遊びを動機づけるモデルが創出されるのである。よって、保育を検討する上では、なるべくクラス全体を捉える俯瞰的な視野が必要と考える。



<写真1> 俯瞰的に撮影された映像の例
(本オンライン公開保育の予行より)

⑤

- 小川博久（2013）においても、保育臨床研究における動画記録には「保育状況全体を把握する必要性からフィールド全体を俯瞰する必要」があると論じている。その上で、保育での子どもの遊びを理解するために、「保育者の位置や動きは、幼児の動きとともに援助行為に入る入らないにかかわらず、フィールドワークにおける観察対象となる。なぜなら、遊び場のフィールド内在者としての『保育者』は、幼児全員との関係性の中に包摂されているからである」と述べ、保育臨床研究における俯瞰性やクラス全体の関係性を考慮した映像の意義を論じている。

▪ 小川博久（2013）保育者養成論．萌文書林．P.274-275

（2）個別的な視野による映像について

- その一方で、オンライン公開保育では、子どもが自ら環境に働きかける姿や保育者や他児と対話する姿などの個別の物語も映像（音声を含む）によって表現され、配信される必要があると考える。

⑥

- なぜならば、オンライン公開保育に参加する視聴者の立場にたってみると、映し出される子どもの姿からなんらかの物語が読み取れなければ、多様な子どもと保育者それぞれの思いが交錯する保育の中から意味を見いだすことは困難になってしまうからである。
- ここが実際の保育を見る公開保育との違いでもある。公開保育においてもある一定のテーマはあるが、実際は、その上で参加者自身が多様な子どもの姿からなんらかの視点を見つけだそうとしている。そのことによって、子どもの姿の背景にある保育の意味を考えようとするのである。
- つまり、オンライン公開保育では対象となる保育への視点は、映像を配信する側（保育者とスタッフ）により委ねられることになる。よって、保育者のその日の保育に対する意図も大事な視点にはなるが、保育実践を映し出すカメラワークや配信する画面構成を担当するスタッフの意図もオンライン公開保育のあり方を検討する上では必要と考える。

⑦

3. 本オンライン公開保育の映像と音声について

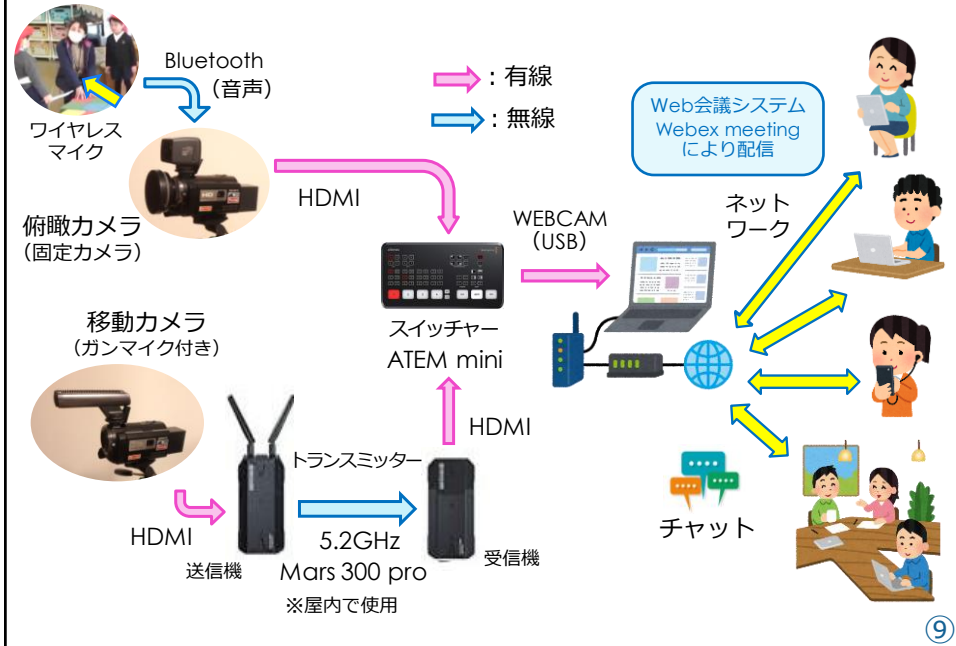
- 今回のオンライン公開保育の映像は、俯瞰的な視野（俯瞰カメラ）と個別的な視野（移動カメラ）による2つの映像を、スイッチャーによって1つの画面（ピクチャーインピクチャー）で構成した。さらに状況に応じて2つの映像を切り替えて配信することにした。
- 音声は、保育者の子どもとの個別の対応（対話）も聴き取れるよう保育者に身に付けていただいたワイヤレスマイクで収録し、主にそれを配信した。
- ライブ配信は、俯瞰カメラと移動カメラなど、複数の映像を一つの画面に同期して配信しやすい特徴をもつ。また、チャットによって公開保育時にも参加者と応答できることもあり、これらの特徴を生かして映像機器等の設定をすることにした。



<写真2> 移動カメラと俯瞰カメラの映像例
(本オンライン公開保育の予行より)

⑧

<図2> 本オンライン公開保育における機器等の設定



<付記>

- 東洋大学ライフデザイン学部子ども支援学専攻では、ICTの利活用による保育の質向上や保育者の働き方改革を支援しています。
- その一つとして、オンライン公開保育の実施に向けたICT技術の支援をおこなっています。ご関心のある方は遠慮なくお問い合わせください。

問い合わせ先：東洋大学ライフデザイン学部 高橋健介
takahashi_k@toyo.jp

- また、園や個人の研修の場として、年8回の「東洋大学オンラインライブ保育講座」（無料）を開催しています。ご関心のある方は以下のWebサイトをご覧くださいませようお願いします。

<https://www.toyo.ac.jp/academics/faculty/hld/cscs/cscs-kouza/>

⑩